

あさひなの米づくり情報

「環境保全米」栽培

稲体強化資材の散布

「畑のカルシウム」 40kg/10a
 「とれ太郎」 20~40kg/10a を散布しましょう。
 ※稲体を健全に保つことにより以下のような効果が期待できます！

- ①いもち病予防 ②食味向上 ③冷害による不稔の軽減 ④倒伏防止 等

追肥 ※下記を上限に今後の気象経過を見ながら加減して下さい。

「あさひな特別栽培専用肥料（10-10-10）」又は「有機入り化成 046号（10-14-6外 2）」
 使用して下さい。葉色ムラが出る前に稲体窒素を保つよう追肥を実施しましょう。

現物施用量目安（10a 当たり）

品 種	追 肥 時 期	実際の散布時期	散布量	備 考	
ササニシキ	減数分裂期	7月20日頃	7月10日頃	10kg	有機入り肥料 ですので通常 の時期より 10日早めに 散布しましょ う！
ひとめぼれ	減数分裂期	7月20日頃	7月10日頃	10kg	
コシヒカリ	減数分裂期	7月30日頃	7月20日頃	10kg	
つや姫	幼穂形成期	7月20日頃	7月10日頃	20kg	

※出穂期がササニシキ・ひとめぼれで8月5日、コシヒカリ・つや姫で8月15日とした場合。

稲こうじ病防除

出穂 20日~10日前に「Zボルドー粉剤 DL」を 3~4kg/10a 散布しましょう。

除草剤「バサグラン」の使用時期が間もなく終了します。（移植後55日まで）
 散布を検討されている方はお早めに！
 ※イネ科雑草には効果がありません。

環境保全米生産者の方に朗報！

◎環境保全米栽培において
カスガマイシン剤（いもち）
バリダマイシン剤（紋枯病）
 が使用できます。

有効成分のカスガマイシン・バリダマイシンの成分カウントが除外されたため、環境保全米栽培において以下の農薬が使用できます。

対象病害	農薬名	有効成分
いもち病	カスミン液剤	カガマイツ
紋枯病	バリダシン液剤5	バリダマイツ
	バリダシン粉剤DL	

※あくまで茎葉処理剤ですので、左記の稲体強化資材による病害予防が基本となります。

管内生育状況（6/30 調査）

平年より 1~2 日遅れております。
 葉齢 96% 草丈 82% 莖数 112%
 葉色 101%（ひとめぼれ平年比データ）

東北地方の天気予報

暖かい空気に覆われやすく、向こう 1 か月の気温は高く、東北太平洋側では、期間の前半はかなり高くなる見込みです。

区分	期 間	項 目	各 階 級 の 確 率		
1ヶ月予報	7/1~ 7/30	気温	低い 10%	平年並 20%	高い 70%

無人ヘリ散布（穂いもち）を申込された方は・・・

7月15日頃から散布を実施しますので、水田に水を張るようお願いします。
 ※雨天・強風により予定変更になる場合があります。

発生予報第5号（6/23 宮城県病害虫防除所発行 抜粋）

病 害 虫 名	発 生 時 期	発 生 量
葉 い も ち	平年並（7/1~7/5日頃）	平年並

中干し

- 田面に軽くひびが入る程度（期間は7~10日間）
- 遅くとも出穂30日前頃までには終了

斑点米カメムシ類

例年発生量が多い・斑点米被害に注意！

- ◎ 水田内ヒ・刈刈の抜き取り
- ◎ 圃場周辺雑草地・畦畔の草刈
- ◎ 牧草地の適切な管理

上記作業は出穂 10 日前まで終了
 （以降はカメムシを水田に追い込む）

箱処理剤・葉いもち予防剤の効果が切れる時期です！

穂いもち予防剤を7月中旬に散布しましょう。

コラトップ粒剤5	3~4kg/10a
フジワン粒剤	3~5kg/10a
フジワン1和粒剤	1~1.5kg/10a

予防徹底！

追肥 現物施用量目安（10a 当たり）

※「NK化成 C68号」（窒素 16%）の場合

品 種	幼穂形成期 （出穂 25 日前）	減数分裂期 （出穂 15 日前）
ササニシキ コシヒカリ	—	7kg
ひとめぼれ	7kg	7kg
まなむすめ	14kg	—

※圃場の地力等を考慮し加減してください。